衆議院議員

# おおつき 紅葉

号外 VOL.9
【7・8月号】
2022.07.15
北海道4区
(後志 小樽市 札幌市手稲区・西区一部)

私の生まれ育った小樽市の赤岩という地域は近年、ロッククライミングの聖地となっているようで、春から秋にかけては多くのクライマーでにぎわいを見せます。
私自身は、子どものボルダリングを少しやってみる程度しか経験はありませんが、なかなか難しいものだと感じます。なにより、こわくて、足がすくみます。いつもと違う筋肉を使うため、プルプルしてきます。でも確実に、一つずつの岩をこの手で掴みながら、一歩ずつ一歩ずつ上へ上へと昇って行く、まさに挑戦の積み重ね、自分との戦いなんだと思います。

選挙もそうです。覚悟を決めたら、信頼と期待をこの手で握りしめて掴みながら、一歩ずつ歩みを進めて行きます。ときに、頑丈だと信じて掴んだ岩が壊れてしまうこともあるでしょう。それでも『もう一歩！』とあきらめず踏み出せるのは、やはり仲間や支援者、地域のみなさんが温かく見守ってくれているからなのです。ここに住むみなさん一人一人が、社会を『もう一歩』前に進める原動力となっているのです。

## ポスター掲示のお願い

ご自宅、ガレージ、畑などポスターをご掲示いただける方がいらっしゃいましたら、すぐに伺わせていただきます。

**立憲民主党北海道第4区総支部**
**おおつき紅葉事務所**

《地元》〒047-0024 小樽市花園2-6-7 プラムビル5F
電話 0134-61-7366 FAX 0134-33-7345
《国会》〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館820号室
電話 03-3508-7493 FAX03-3508-3320

立憲民主党

《立憲民主編集部》
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-12-4 ふとビル3F
電話 03-6811-2301
FAX 03-6811-2302
goiken@cdp-japan.net
http://cdp-japan.jp/

公式HPはこちら→

# 参院選 徳永エリ氏 3期目当選
# 低投票率の課題と教育の必要性

先の参議院選挙に置いて、改選数3の参院選北海道選挙区では徳永エリ氏が3期目の当選、比例区では6名の議席を獲得いたしました。しかし、鉢呂吉雄氏の後継者である石川ともひろ氏はわずかの差で届かず国政復帰を果たせませんでした。この間、ご支持、ご支援をいただいた皆さまに心から御礼を申し上げます。

今回の参議院選挙の投票率は3年前の前回選挙に比べて0.22ポイント高く、53.98%でした。1990年代、バブル崩壊以降は投票率の低迷が続いています。さて、政治の世界に自分の利害を代弁できる存在はいますか？物価が急激に上がった、実質賃金は下がっている、児童手当の所得制限が始まる、年金もカットされる、高齢者の医療費の窓口負担も増える、これだけ円安でも輸出できる製品はかつてほど多くはない。これが世界に誇る日本のあるべき姿なのでしょうか。

このまちに暮らすみなさんで、こういった問題を認識し、政治に関わることで少しずつ世の中を変えていくことが今こそ必要だと考えています。

選挙期間中、高校1年生の学生4人が声をかけてくれました。「僕たちはまだ投票にはいけません。でも学校で、選挙というのがどういうものか教えてもらわないと、ある日突然18歳になって投票に行けと言われても、何が正しく、何に投票すべきかわかりません。教育に取り入れていただけませんか。」と、主権者教育の必要性を訴えました。とても重要な視点です。私は立憲民主党に所属していますが、むしろ学生たちにはフラットな目線で、自分の一票にどんな価値があるのか、各党がどんな社会にしたくて訴えているのか、ぜひ興味を持って学んでほしいと願い、国会でも訴えてまいりたいと思います。

## ジェンダーギャップランキング 2022

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | アイスランド | 19 | フィリピン | 37 | ペルー | 55 | ジョージア |
| 2 | フィンランド | 20 | 南アフリカ | 38 | ジャマイカ | 56 | 東ティモール |
| 3 | ノルウェー | 21 | オーストリア | 39 | スロベニア | 57 | ケニア |
| 4 | ニュージーランド | 22 | 英国 | 40 | パナマ | 58 | エスワティニ |
| 5 | スウェーデン | 23 | セルビア | 41 | エクアドル | 59 | エルサルバドル |
| 6 | ルワンダ | 24 | ブルンジ | 42 | ブルガリア | 60 | イスラエル |
| 7 | ニカラグア | 25 | カナダ | 43 | オーストラリア | 61 | ウガンダ |
| 8 | ナミビア | 26 | ラトビア | 44 | スリナム | 62 | ザンビア |
| 9 | アイルランド | 27 | 米国 | 45 | カボベルデ | 63 | イタリア |
| 10 | ドイツ | 28 | オランダ | 46 | ルクセンブルク | 64 | タンザニア |
| 11 | リトアニア | 29 | ポルトガル | 47 | チリ | 65 | カザフスタン |
| 12 | コスタリカ | 30 | バルバドス | 48 | マダガスカル | 66 | ボツワナ |
| 13 | スイス | 31 | メキシコ | 49 | シンガポール | 67 | スロバキア |
| 14 | ベルギー | 32 | デンマーク | 50 | ジンバブエ | 68 | アラブ首長国連邦 |
| 15 | フランス | 33 | アルゼンチン | 51 | ボリビア | 69 | 北マケドニア |
| 16 | モルドバ | 34 | モザンビーク | 52 | エストニア | 70 | モンゴル |
| 17 | スペイン | 35 | ガイアナ | 53 | ラオス | 71 | バングラデシュ |
| 18 | アルバニア | 36 | ベラルーシ | 54 | モンテネグロ | 72 | ウルグアイ |
| | | | | | | 73 | ボスニア・ヘルツェゴビナ |
| 74 | エチオピア | 92 | インドネシア | 110 | スリランカ | 128 | ニジェール |
| 75 | コロンビア | 93 | キプロス | 111 | バヌアツ | 129 | エジプト |
| 76 | チェコ | 94 | ブラジル | 112 | セネガル | 130 | クウェート |
| 77 | ポーランド | 95 | ベリーズ | 113 | グアテマラ | 131 | バーレーン |
| 78 | リベリア | 96 | ネパール | 114 | タジキスタン | 132 | マラウイ |
| 79 | タイ | 97 | カメルーン | 115 | ブルキナファソ | 133 | コートジボワール |
| 80 | パラグアイ | 98 | カンボジア | 116 | **日本** | 134 | コモロ |
| 81 | ウクライナ | 99 | 韓国 | 117 | モルディブ | 135 | インド |
| 82 | ホンジュラス | 100 | ギリシャ | 118 | ギニア | 136 | モロッコ |
| 83 | ベトナム | 101 | アゼルバイジャン | 119 | レバノン | 137 | カタール |
| 84 | ドミニカ共和国 | 102 | 中国 | 120 | チュニジア | 138 | ベナン |
| 85 | マルタ | 103 | マレーシア | 121 | ガンビア | 139 | オマーン |
| 86 | キルギス | 104 | ブルネイ | 122 | ヨルダン | 140 | アルジェリア |
| 87 | レソト | 105 | モーリシャス | 123 | ナイジェリア | 141 | マリ |
| 88 | ハンガリー | 106 | ミャンマー | 124 | トルコ | 142 | チャド |
| 89 | アルメニア | 107 | フィジー | 125 | アンゴラ | 143 | イラン |
| 90 | ルーマニア | 108 | ガーナ | 126 | ブータン | 144 | コンゴ民主共和国 |
| 91 | トーゴ | 109 | シエラレオネ | 127 | サウジアラビア | 145 | パキスタン |
| | | | | | | 146 | アフガニスタン |

※朝日新聞デジタル参照

## 日本の男女間格差は今年も先進国最下位
## 政治・経済で改善進まず

世界経済フォーラム（WEF）は、今月、ジェンダー平等の度合いを示す「ジェンダー・ギャップ指数2022」を公表しました。日本の順位は146カ国中116位で、昨年3月の120位（156カ国中）より数字の上ではわずかに上昇しましたが、主要先進国では引き続き最下位となっています。WEFが指標とする「経済」「教育」「医療へのアクセス」「政治参加」の4分野のうち、わが国が特に立ち遅れているのは政治と経済の分野です。

政治分野では、昨年の衆議院選挙の結果、女性比率がそれまでの9.9%から9.7%に後退するなど全体で139位（昨年147位）と低迷、経済分野も収入における男女格差が100位、管理職についている男女差で130位など、全体で121位（昨年117位）となっています。「選択的夫婦別姓制度」についても野党提出の法案を与党は審議すらしようとしないのが現実です。

こうした中、参院選においては全体の女性候補者比率が33%、当選者比率は28%と過去最高になりました。立憲民主党は選挙前に「女性候補者比率50%」の目標を掲げ、公認の女性候補者比率51%、当選者比率53%と、国政におけるジェンダー平等推進をリードしてきました。秋以降の臨時国会でも、立憲民主党はクオータ制や選択的夫婦別姓法案をはじめとするジェンダー平等推進のための制度導入の議論をリードしていきます。そして、20－30年後には、「女性政治家」という言葉を知らないで済む世代が育っていることを目指しています。